

第6回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年5月12日 午後3時から午後4時40分

場所 ふれ愛支援センター 多目的ホール

参加 委員 17名
事務局 6名

議事

①適正配置検討資料について

- 1.推計児童生徒数の見直し（資料1）
- 2.中学校区ごとの推計児童数について（資料2）
- 3.南魚沼市総合計画実施計画の事業予定について（資料3）

②適正配置検討で共有する視点について（資料4）

③大和地区小学校の適正配置の検討（資料5）

④その他

1. 開会（学校教育課長）15：00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

教育部長 資料1について説明。

委員長 事務局より説明がありました。この推計に基づき今後の検討を進めますが、何か質問等はありませんでしょうか。

委員長 続いて、資料2及び資料3についても事務局より説明をお願いします。

課長 資料2及び資料3について説明

委員長 資料2及び資料3について、ご質問などありませんでしょうか。

委員長 それでは、議事②適正配置検討で共有する視点について事務局より説明願います。

課長 資料4について説明

委員長 事務局より、適正配置の検討にあたっての共有事項を説明しました。委員の皆さまからご意見がありましたらお願いします。

委員 六日町中学校は1年生と2年生の人数が同じですが、クラス数が1年生は4クラスで2年生は3クラスです。クラス数を増やすことは可能なのでしょうか。

教育部長 様々な事情により、そういうことはあり得ます。

教育長 自由に学級数を増やすということではなくて、通常学級と支援学級の児童生徒数によって基準があります。

委員 検討に必要な視点で通学距離と必要な配慮という文言がありますが、必要な配慮という点で共通の認識があるのでしょうか。

教育部長 具体的なことを話し合ったわけではありません。委員の皆様からは広いエリアで統合した場合のご心配をいただいておりますので、今後統合を考えていく上で議論に含めていただきたいと思っております。

委員長 ご意見ありがとうございました。これらの視点を共有したうえで、今後の適正配置の検討をお願いします。

委員長 それでは、議事③大和地区小学校の適正配置の検討について、事務局より資料の説明を願います。

課長 資料5及び資料2の大和中学校区の状況について説明

委員長 三用小と赤石小については、平成20年の答申において統合すると示されている学校であり、資料2の推計でも、複式学級が現実的に迫っていることから、早期に方針を示し、地元との協議を開始する必要があると思われます。まず、この点についてどなたかからご発言をいただけませんかでしょうか。

委員 東地区には2つの小学校がありますが、文化や生活はほとんど同じなので2つの小学校が統合することに関して地元の方は違和感がないと思います。今まで議論にあったように複式学級ではなくてある程度の人数になることはいいことだと思います。私どもは地域づくり協議会ということで地域を元気にしなくてはいけないという使命でもありますが、数だけではなく学校の持つ役割は大きいと思います。学校が地域からなくなれば人口は減り、人が来ません。要するに学校と地域が連携していないと地域に愛着が湧きません。ただ、住むところを考えるとときに学校や保育園が近くにある

ことが重要で、それだけ学校や保育園は若い人にとっては特に大きな存在です。地域づくり協議会ではコミュニティスクールの中身を検討しています。学校と家庭だけでなく地域も一緒になって子どもを育てていかないと子どもは残らない。子どもが残らないと地域に未来がないということです。とは言っても教育環境の整備もありますし、難しいこともあると思います。

委員 三用小、赤石小の方向性についてご意見がある方は挙手願います。

委員 地域と学校の繋がり強いが、最も重要視すべき点は子どもの教育環境だと思います。ある程度の人数がいないと競争は難しいです。そうした時に中心地である浦佐地区と合併することが望ましいと考えています。一度にではなく、地元と話をしながら大和中も含めて浦佐地区に新校舎を作ることも踏まえながら進めていくことが大事だと思っています。

委員 大和中も浦佐小も古くなってきていて、建て替えについて先延ばしにはしてはいけないと思います。トイレが和式で、雨漏りをする中学校に行きたい子はいないですし、将来南魚沼市に戻って来ようと思いません。今思い切って建て替えをしなければ今後は難しいと思います。私は大和地区全体が一緒になったほうがいいと思います。

委員 基本的に決断するのは地域だと思います。三用小と赤石小は同じペースで児童数が減っています。二つの小学校を合わせると大崎や藪神とほぼ同じく推移しています。東地区の皆さんの意見を聞いた上で大きな決断をするのも一つではないかと思っています。

委員 大和地区は社会体育が活発ですが、六日町地区は社会体育がないのでそれについてご存じであれば教えていただきたい。

委員 南魚沼市の体育協会がやっているのがありますが、今は民間クラブが目立っています。民間クラブが一生懸命で、湯沢から来ている子もいますし、サッカーのために十日町に行っている子もいます。練習環境や指導者に恵まれたところに人が集まります。

委員長 ご意見ありがとうございました。委員のご意見では、浦佐小へ三用小と赤石小を統合する方向性が示されましたが、これは可能な状況でしょうか？事務局より回答願います。

課長 現状浦佐小学校は、1学年2学級が編成上の上限です。資料2の推計では、2023年度の2年生において、浦佐小、三用小、赤石小の児童数の合計が72人であり、3クラスの編成となることが見込まれます。この学年が卒業する2028年度以降は、全ての学年

において2学級以下となることから、受け入れることが可能となる見込みです。

委員 総合計画で修繕が必要になる目安をお聞きしたいです。統合ありきであれば、修繕工事を見直す必要があると思います。

教育部長 この計画については来年度から3年間を期間として見通せるものについて挙げています。緊急性が高い大和中、北辰小、大和給食センターについては手を付けようとしています。ただ、今私たちの中では大和中を建て替える考えがありますが、そうではないという考えが出てきたときには改めて修正するのかどうかを判断しなければいけないと思っています。ここでの議論が改築や大規模改修に影響を与えることもあり得ます。

委員 大改造してしまえば、統合が薄れてくるとは思いますが。

教育部長 南魚沼市内の小中学校は合併の際に耐震化が済んでいない学校は大規模改修をしました。まさに次の大規模改修を考えなければいけません。その中で三用小学校は2026年に校舎は60年を迎え、赤石小学校は40年、浦佐小学校もその翌年には60年を迎えます。学校のこれからの方向性を見定めた上で優先順位を付けていくべきだと思っています。また、地元の意見も聞いた上で決めていくことだと思っています。

委員 建て替えするのと修繕を繰り返していくのとではどちらが安いのか。

教育部長 市では鉄筋コンクリートだとすると80年の中で2回大規模改修をすることが一番効率的という考えを出しています。年数だけで建て直しを決めるというより皆さんの考えを持ち寄った中で決めていくのがいいと思います。

委員長 ありがとうございます。三用小と赤石小の方針については、次回の会議で改めて検討します。

委員長 続いて、大崎小、藪神小の2校について検討を行います。後山小学校については、現在特認校としていることと、仮に統合するとしても人数的に大きな影響を与えないことから、一旦検討から外したいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長 大崎小と藪神小については、資料2のとおり、2028年度（令和10年度）に藪神小が、2029年度（令和11年度）に大崎小が100名を割り込み、現在の適正規模を下回ることが見込まれています。これは先ほど検討した三用小、赤石小の統合時期と重なりますが、先ほど事務局から説明があったとおり、現在の浦佐小学校で受け入れられる児童数は各学年2学級が限界であり、最低3学級が必要となるため、統合は難しい状況

です。また、複式学級が想定される時期は、2050年度（令和32年度）となり、25年程度先となる見込みです。この、5年後から25年後の間のどこかで、様々な状況を考慮しながら方向性を定めていくことが必要になると思われます。委員の皆様のご意見を伺います。

委員 2028年になるまで三用小と赤石小の浦佐小との統合は難しいということですが、そこで3校が一緒になったとしても同じ頃には大崎小や藪神小も200人を切ってきます。学校現場からすると、三用小と赤石小が浦佐小に統合した数年後には大崎小や藪神小も統合となると職員や子どもたちの気持ちを考えると負担が大きい。段階的にやっていくのも一つの方法でメリットもたくさんあると思うが、子どもの数が減っていくのは分かっているわけなので2段階にせず進めるのが良いのかは十分に検討する必要があると思います。早い時期から地域から意見を聞いて進めることが大事だと感じます。

委員長 他、委員の皆様からのご意見をお願いします。

委員 南魚沼市が合併した時は人口6万4千人で、今5万4千人です。20年で人口が15%減っています。六日町でも空き家より空き地になって人が減っています。子どもたちは10年から20年で30%くらい減るとなると、その後は加速度的に子どもが減ってしまいます。合併の議論をするたびにこのような会を繰り返して皆さん大変な想いをすることになります。それよりは市として指針を出してもらってそれに向けた議論をしていくのがいいと思います。

委員 2段階3段階でそれぞれの学校が統合を繰り返すのはエネルギーが必要なことです。1学年2クラスを実現するのであれば、大和地区に小学校1つ中学校1つということになるわけで、生徒が入らないということであればすぐに整備をすることになります。大和・六日町・塩沢の3地区で考えた上での適正規模と適正配置ということだと思いますが、20年後30年後には3地区を取っ払って適正規模と適正配置を考えなければいけない時が迫っていると思います。大和地区に関しては三用小、赤石小のみならず大崎小、藪神小も中心の浦佐地区に統合して1学年2クラスを実現していくのが望ましいと思っています。

委員長 様々なご意見ありがとうございました。今回出たご意見については事務局で整理し、次回の会議でお示したうえで、方向性を決定したいと思います。よろしくお願いします。

午後4時40分終了

5. 次回の開催予定：5月29日（月）

6. 閉会